

—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

リビア：アル=カーイダがアブー・アナス・リービー逮捕を論評

インターネット上で、アル=カーイダのアメリカ人活動家アダム・ガダン（通称：アッザーム・アムリーキー）が、2013年10月5日に、アメリカ軍がトリポリでイスラーム過激派容疑者のアブー・アナス・リービーを拘束した件に論評する演説が出回った。アメリカ当局は、リービーをアル=カーイダ幹部として追跡、1998年のケニアとタンザニアでのアメリカ大使館爆破事件の重要容疑者として拘束していた。

ガダンは、演説の中でリービー拘束について以下の通り述べた。

\* リービーは（1998年の）ケニア・タンザニアでの攻撃の数年前にアル=カーイダを離れ、アル=カーイダからは独立してリビアでの活動に特化する集団に所属していた。同人は問題の攻撃の実行者に含まれておらず、アメリカがリービーを首謀者と主張するのはおかしい。

\* イスラーム共同体の民、特にリビアの民は、この事件を懲罰なしに済ませてはならない。イスラームの地は全てが我々の家なのであり、その一部に対する侵害は我々全てに対する侵害だ。マグリブでムスリムがさらわれたなら、マシュリクでそれを救出する行動を起こすのだ。アメリカの海賊行為に対抗し、あらゆる場所でアメリカ権益を攻撃せよ。十字軍とユダヤとの戦闘は、境界も制限もない世界戦争である。唯一の制限は、シャリーアとイスラームの利益のみだ。

\* リビアの民は本件に沈黙してはならず、アブー・アナスの解放まで圧力をかけ続けよ。さもなくば、リビアでは誰一人アメリカと十字軍による拉致から安全で居られない。

この演説で注目すべき点は、アブー・アナス・リービーが1998年の事件に関与していない、というアル=カーイダ側の主張ではなく、アメリカが特殊作戦によって同人を拘束したことを「イスラーム世界全体への侵害」と認識し、あらゆる場所でアメリカに対する攻撃を呼びかけた点にある。イスラーム過激派諸派の間では、アル=カーイダ傘下の諸派をはじめ、この種の主張に複数の団体が同調する広報活動を行うことがあるため、今後各地でイスラーム過激派がリービー拘束事件に言及する声明を発表したり、襲撃・誘拐事件をこの問題と関連付けて広報したりする可能性がある。その一方で、イスラーム過激派がアメリカをはじめとする各国の領域や、各国の権益に対し組織的な攻撃を行う能力は近年低下しているため、今般の扇動がどの程度実際の行動に反映されるかについては疑問が残る。

（イスラーム過激派モニター班）

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799